

事例項目	④本人、家族への交流機会の提供
内容	<p>[相談を受けたきっかけ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 夫 50 代後半（本人）は仕事でミスあり、MCI の診断あり、「上司にどのように伝えたらいいのか、夫をどう支えたらいいのか」と、妻より認知症地域支援推進員に相談があった。 ● 相談を受けた推進員からコーディネーターに連絡があった。 <p>[相談者背景]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本人は定年退職までは何とか仕事をしたいと考えていた。職場にはバスで通勤することにした。 ● 妻はパート勤務。 ● 娘二人は独立しており、妻とマンションで二人暮らし。 <p>[支援内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 妻は離婚も考えていたが、診断がついたことで病気を理解するとともに夫との関係を見直すことができ、夫をどう支えていくかを娘・実姉・推進員・コーディネーターに相談された。 ● コーディネーターとしては、若年性認知症の理解や対応の仕方、仲間づくりの支援をした。 ● 本人に対しては、MCI の仲間がおられることやまいんど（若年性認知症の人と家族のつどい）の紹介をした。参加する意思はあっても、参加できなかったが、退職してからは夫婦で参加できるようになった。 ● 退職後の居場所づくりについて、出会った時から情報提供をした。しかし退職後は家でゆっくり過ごしたいと、散歩を毎日楽しんだり家事をしたりしておられた。 ● まいりどの仲間が作業所（就労継続支援 B 型事業所）を利用されており、それがよい刺激になったと思われ、その後、自分で作業所を探し、障がいサービスを利用され、コーディネーターは同行支援をした。 ● 作業所での仲間づくりができるように、作業所のスタッフに勉強会（病気の理解・人間関係について）でアドバイスをした。 <p>[支援しての所見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報提供をしながら本人のペースに合わせて、まいんど（つどい）に誘ったことで、スムーズに仲間づくりができた。 ● まいりどの仲間と作業所の仲間という居場所づくり（安心できる環境）に努めた。
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人のペースに沿って、まいんど（つどい）と障がいサービスの利用支援を行った。 ● 本人が安心できる居場所（仲間づくり）に配慮した。 ● 家族への支援（面会・電話・メール）も行った。